

アジア太平洋腎研究推進室ニュース

2019年10月

10月28日（月）から台湾台中市を訪問し、中山医学大学附設医院内科カンファレンスでの講演（演題名： How to diagnose and treat patients with chronic kidney disease (CKD) in Japan）と中国医薬大学医学部4年生への講義〔演題名： The use of kidney biopsy for managing glomerular diseases. Clinical diagnosis and treatment of chronic kidney disease (CKD)〕をいたしました。



台湾では、100万人当たりの透析患者数はわが国よりも多く、糖尿病性腎臓病による透析導入が大きな問題になっています。日本と同じように積極的なCKD対策が取られていまし

たが、今後どのようにになっていくかが注目されます。

中国医薬大学医学部学生への英語での講義は初めての試みということでしたが、180名の学生は大変熱心で英語力も大変優れていると感心いたしました（写真）。

私の最後の言葉として、「One for all. All for one」：一人（の医師）は皆（すべての患者さん）のために、皆（すべての医師）は一つの目的（患者さんの喜ぶ顔）のために！を贈りました。やや疲れましたが、楽しいひと時でした。

（アジア太平洋腎研究推進室長 富野康日己）。